

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	施術概論4	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	後期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書は「一般臨床医学解剖学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	奈良 和彦		実務経験の有無・職種	有・医師	
学習目的					
柔道整復師は医療資格であり、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため人体の構造と機能を熟知する必要がある。しかしながら医療現場では柔道整復師の業務範囲外の疾病と思われる患者に遭遇することがあり、速やかに医師の診断を仰ぐ必要が出てくる。西洋医学は、応用医学の一部門として、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。病理学的背景に裏づけられた疾患分類は疾病の把握が容易であり、理解しやすい。柔道整復術は、西洋医学とは診断方法や治療法などで多くの点で異なっているため、国民の健康向上を担う医療人として内科学的な一般臨床医学の知識を学ぶことで医師との連携を密にすることのできる人材の育成がこの科目を受講する学生の目的となる。					
到達目標					
医療機関では、患者がもっている精神的・肉体的異常を、まず正確に把握しなければならず、こうした医療行為が診察であり、それにより患者が健康に復帰するために行う処置、すなわち治療を施すための根拠が得られることになる。診察では、患者の訴える自覚症状（愁訴）を聴取することから始まり、患者の身体に現れている異常な他覚的所見（徴候）を眼でみたり、手で触ったりして観察する。ついで、診察を通じて患者の異常状態なり病名を判断する。この行為を診断という。診察から診断について学ぶことで柔道整復師本来の業務範囲に活用できることが目標である。					
教育方法等					
授業概要	教科書を中心として授業を進める。医療従事者は症状・診断法・注意すべき顔貌や愁訴など、いくつかの疾患を念頭に置きながら、それらのなかからその患者に最も妥当と考えられる疾患名を判定できる能力を必要とされる。柔道整復師として臨床現場においても求められる鑑別診断の知識を、内科学を学ぶことで育成する。				
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	代謝疾患		糖尿病・脂質異常症（高脂血症）・痛風・骨粗鬆症などについて理解する		
2回	内分泌疾患①		間脳・下垂体機能異常や甲状腺疾患について理解する		
3回	内分泌疾患②		副甲状腺疾患や副腎疾患について理解する		
4回	血液疾患①		貧血の種類・症状・診断・治療について理解する		
5回	血液疾患②		白血病や悪性リンパ腫・骨髄腫などについて理解する		
6回	腎泌尿器疾患①		乏尿・無尿・排尿困難・血尿などについて理解する		
7回	腎泌尿器疾患②		腎不全について理解する		
8回	後期7週までの振り返りと確認演習		1回～7回の知識が蓄積されているか確認する		
9回	膠原病①		リウマチ性疾患について理解する		
10回	膠原病②		SLE・強皮症・多発性筋炎・ベーチェット病などについて理解する		
11回	感染症①		細菌感染症・真菌感染症について理解する		
12回	感染症②		ウイルス感染症について理解する		
13回	環境因子による疾病		熱中症・低体温症・高山病・潜函病について理解する		
14回	後期13週までの振り返りと確認演習		9回～13回の知識が蓄積されているか確認する		
15回	まとめ		半期で取得した知識の確認		